

上田 勉

前回の通信を見て、合コンはいつなのかという問い合わせがありました。

ソチ五輪をテレビで見ている、被災地のことはほとんど語られません。6年後の東京五輪、「復興五輪」をアピールしています。被災地ではなく、東京だけの復興で終わらないのかと大いに心配です。

そのような中で、羽生選手。いつも被災地に思いを寄せてくれています。

試練重ね成長 羽生 金 「復興の力に」責任感

「五輪に出て、金メダルを取りたい」が幼いころから夢だった。フィギアスケートの羽生結弦選手（19）＝宮城・東北高一早大＝はその夢を実現し、日本人男子初の偉業を達成した。「金メダリストになれたからこそ（東日本大震災からの）復興のために出来ることがある。今日をそのスタートにしたい」。手放しに喜ぶのではなく、静かに微笑む笑顔に、故郷・仙台と東北の復興を誓う若き王者の責任感が満ちていた。

「金メダルなのに笑顔がないのはなぜですか」。競技後の記者会見。硬い表情の羽生選手に質問が飛んだ。「震災について語るのは難しい。僕に何ができたのか考えてしまうから」。言葉を慎重に選びながらそう答えた。

日の丸をまとい、ソチのリンクを1周した後、応援してくれた観客席に深く頭を下げた。「復興を支援してくれた全ての人に恩返しできたかな」。自分の金メダルを、控え目に褒めていた。

被災地に希望 「東北人の粘りを感じた」

「夫とそば店を営む大船渡市のHさん（59）は、津波で店と自宅を失い、2012年6月に再建した。「震災時に仙台のリンクにいた羽生さんは、自分たちと同じ目線で頑張ってくれた。東北人の粘りを感じた。」

気仙沼市の仮設住宅に住む無職Cさん（76）は、「震災後の厳しい環境の中で練習を続けて、被災地にとって本当に価値あるメダル」と力を込める。

南三陸町の仮設商店街で酒店を営むSさん（55）は「インタビューのたびに被災地の話をしてくれる気遣いがうれしかった」と活躍に顔をほころばせた。

「五輪開幕後、仮設住宅では羽生選手の話で持ちきりだった」と話すのは、石巻市のOさん（73）。「仮設にいるけど、前向きに生活したいと思った」

福島県飯館村から、福島市の仮設住宅に避難している無職Sさん（77）も「孫のように応援してきた。これを励みに、避難先の冬を乗り切りたい」と話す。仙台市若林区の仮設住宅に住む無職Cさん（56）は「4回転ジャンプでミスしたが、最後まで素晴らしい演技だった。元気をもらった」とたたえた。

羽生選手のスケート靴の刃を研磨するスケート店「NICE」（仙台市泉区）のYさん（41）は「東日本大震災を乗り越え、腐らず練習したのが実った」とたくましく成長したことを実感する。「河北新報」（14年2月16日付け）